



金石原の薬師如来

ります。側面の右と左に「大正二年三月建之」(一九一三年)「施主金石原女人中」とあります。建立のいわれは定かではありませんが信心深い、ご婦人たちの意思で建立されたものと思われまます。この薬師さんは刻字のとおり弘法大師四国巡礼所にちなんだ、伊万里新四国八十八札所の一つで、毎年、春と秋にお巡りさんの参拝が

あり、地元的女性たちがお茶とお菓子などで接待しています。下分後田の薬師如来 字後田に行く道を入るとすぐ右に高い石段があります。登り上がると奥に薬師堂があります。周りは広い境内になっていて六体地藏も祭つてあります。お堂には「瑠璃殿」と大書した扁額が掲げてあり三体の仏像が祭られています。中央に一段高く薬師如来の像が置かれています。右手は施無畏印の形に胸に挙げ、左手に薬壺を載せて蓮華座に坐しています。蓮華座から光背(輪光)まで約九〇センチの座像です。造りの質感から木造ではないかと思われまます。



下分後田の薬師如来

お堂に瑠璃殿とあるように薬師如来は經典では東方薬師瑠璃光浄土の主尊として説かれており、薬師瑠璃光如来ともいわれます。

如来の両脇には、頭上の宝冠に阿弥陀の化仏をつけている観音菩薩と金剛杵を右手に持つ弘法大師の座像と思われる石像が並べてありますので、何か由緒あるものと思われまます。(註・化仏は本来の仏を示す飾り)

岳坂の薬師如来 岳坂の山手を上に登った、字岳に薬師堂があります。奥の祭壇に蓮華座の上に乗った薬師如来像が祭られています。

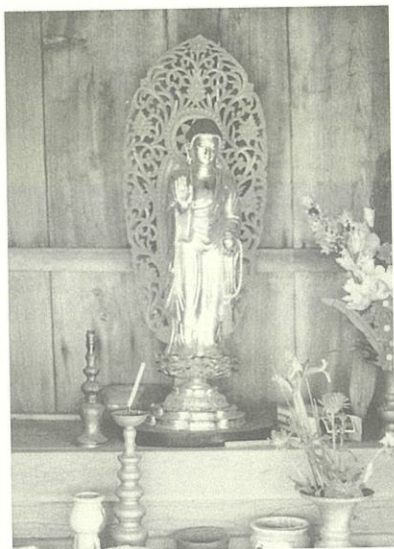
如来像は、舟形光背があり右手は施無畏印の形にかざし左手に薬壺をいただいた姿です。高さは、下框から光背の上まで約八五センチで本尊は四九センチあります。

平成の初め、お堂の火災が起こり本尊が損傷したので、当世造りの新しい薬師如来像に替えられています。

棟板が祭壇に掲げてあって、「奉上棟大元拝□□
□守護神」下部に建立者氏名を数人と、裏面に「昭和九年戊戌三月三十一日」と書きこまれています。

〔□は文字不明〕

お堂の改築に際して、今後の安全保守を祈願したお



岳坂の薬師如来

守り札と思われれます。

薬師如来は、病を治し苦痛を除き、寿命を延ばす徳をもつ仏といわれ、わが国では飛鳥時代から造像され御利益のある如来の一つとして、今でも厚く信仰されています。

お堂の裏には、薬師さまに見守られて沢山の五輪塔や法篋印塔が祭られています。

下分瓶山の薬師堂 堂山から北に行った瓶山の一番奥に地藏山があります。その麓に大小二つの堂宇（お堂）があり、一坪にも満たない小さいお堂に薬師如来が祭ってあります。

框座・蓮華台・座像の三部からなる全体の高さが三五寸の木造の仏像です。右手は掌を見せる施無畏印の相（人の畏れを去らせる印相）、左手は薬壺を持ち頭部には後ろに輪光があります。彫刻は極めて緻密に細工され、その上金箔を施した跡があります。



下分瓶山の薬師如来

(2) 観音さん

観音さんは、正しくは観世音菩薩という菩薩さまです。菩薩は人々を苦しみから救い福德を与えながら、自らも正覚（悟り）を求めて修行し最高の悟りを開いて仏（如来）になろうとする諸尊の

一つです。

また、観音菩薩（聖観音）は救いを求める人々に応じて、さまざまな姿を現わし救ってくださる慈悲の仏で、千手・十一面・如意輪・馬頭など多くの変化観音があり、町内にもあちこちに祭られ早くから厚く信仰されているようです。

上分の観音堂 字劔ギの鷹ノ巣山に観音菩薩を祭ってあるお堂があります。観音菩薩像は、石造の祠の中に蓮華座に立った姿です。像の高さが約四一寸の砂岩で造られています。ほかに、もう一

体高さが約四三寸の観音像があります。造像紀年は分からないが彫像の素朴な形や風化の状態から古さが感じられます。

お堂は、話によれば宮大工の建造で、前面の虹梁には彫刻があらわれ立派なお堂でした。歲月を経て老朽化して倒壊寸前になったので、平成六年四月に解体し同年八月に、お堂を小さくして木造とコンクリートの折衷造りに改築しました。解体中に建造年月を調べましたが棟木などの記録も見当らず分かりませんでした。角釘の使用や瓦の型の古さから明治初期の建造かと思われれます。

観音像の右側には、舟形周縁のついた地藏菩薩も並べて祭ってあります。



劔の観音堂

この時、佐賀藩の綾部右京、大木兵部の両人は佐賀からわざわざ桃川を訪れ葬儀万端を執り行いました。

碑文の左に「南無釈迦牟尼七月十八日一回忌立之」とありますので神右衛門の一回忌に、建立者は分かりませんが供養塔が建てられています。

村の人たちは、ここを「じょうとうさん」と呼び遺徳を慕って数百年続けてお祭りをしています。戦前までは八月一〇日（夏休みに行うため命日より一月繰り下げ）に子どもたちが主になって境内の清掃や道作りをして、夜は他所から踊りや浪花節の役者を雇い賑やかな祭りをしていました。現在は子ども会がふるさとの行事としてお祭りをしています。

なお、伊万里市教育委員会が立てた史跡指定の掲示板に、次のような指定理由が書いてあります。

神右衛門清明は初代有田皿山代官や楠久牧奉行になった中野神右衛門重澄の父で「葉隠」の口述者である山本常朝の祖父に当たる人である。

この供養塔は郷土の歴史上の人物であった中野神右衛門清明の存在と中野神右衛門清明年譜（正徳四年一七一四）の内容及び近世板碑研究の資料として貴重である。



浄通さん(中野神右衛門)供養塔

岳坂の墓碑塔群 薬師如来のお堂裏に無数の小形の五輪塔や法篋印塔、中には五輪塔を線刻した石碑も混じって置かれています。地輪から空輪まで、基礎から相輪まで揃って積まれた塔や塔の部分石などがありますが、上部の空輪・相輪だけ数えても三十基は越す塔の数です。話によれば、岳坂地区に散在していた墓碑塔を寄せたものだそうです。

五輪塔や宝篋印塔は江戸時代以前に多く造られた墓碑塔ですが、当時は身分や由緒のある人だけが建て、庶民が建てるのは稀でしたので、ここに葬られた人たちは、岳坂地区に住んでいた何か謂れのある人たちの集団ではないかと思われれます。

岳坂は大陣岳の中腹にあります。大陣岳の地名の起りを考えると、戦国の世に砦を築き大きな陣屋を張ったことから付けられた地名ではないかと思われれます。この無数の塔は、松浦党武士団が戦ったという伝承があるのでその時の戦死者か、その一門の武士を葬った墓ではないかなどと想像を広げたくりますが、記録など証になる確かなものはありません。



岳坂の墓碑塔群

村分のやんぼしさんの墓 村分桜並の黒尾岳川沿いの田んぼの中に「やんぼしさん」と言い伝えられた墓碑のある霊地として、土地改良工事の際も触らずに残された一段高い一角があります。